


沖縄国際大学 2025年度FD支援プログラム成果報告書

下記内容により、FD支援プログラムの取り組みが完了いたしましたので、「FD支援プログラム成果報告書」にて、ご報告いたします。

報告者氏名	藤波 潔		所属・職名	総合文化学部・教授
プログラム名称	「探究学習」を中核とした高大連携・高大接続のモデル構築			
実施及び成果の要旨	<p>本プログラムは、2023年度の本プログラム「高等学校における「総合的な探究の時間」の実態調査－入学前教育・初年次教育の再考に向けて」で明らかとなった沖縄県内の高等学校における「総合的な探究の時間」の課題に対して、高大連携に基づいたモデルを構築することを目指したものである。</p> <p>このことを実現するために、2025年9月～10月、興南高等学校の2学年の「総合的な探究の時間」に、申請者が担当する教職ゼミのゼミ生8名の協力を得て、2クラスを対象として支援プログラムを展開した。具体的には、興南高等学校の「総合的な探究の時間」における「個人探究」の取り組みに参加し、生徒の皆さんのプレゼンテーション資料作成に際して、生徒からの質問に対応し、資料の内容等に対して助言をおこなうものだった。</p> <p>また、高大連携に基づく「探究学習」の支援のあり方について調査するために、別府大学と帝塚山大学を訪れ、関係者に対する聞き取り調査を実施した。</p>			
実施期間	自： 2025 年 4 月 1 日 至： 2026 年 3 月 31 日			

※共同実施者（2人以上の場合は、別紙添付のこと）

申請者氏名	印	所属・職名	
申請者氏名	印	所属・職名	

目的	<p>県内高等学校との「総合的な探究の時間」についての連携実践を実施することで、「探究学習」を中核とした高大連携・高大接続の実践的なモデルを構築すること、および「総合的な探究の時間」に意欲的に取り組んでいる県外高校の事例を学び、それを県内高校にフィードバックすることを通じて、高大連携による「探究学習」の将来を検討すること</p>
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 興南高等学校の「総合的な探究の時間」への支援 2025年9月26日、10月3日、17日、24日の4回にわたって、本学学生8名が興南高等学校2学年の2クラスに入って、「個人探究」活動の成果物であるプレゼンテーション資料の作成を支援した。また、2025年11月14日に開催された興南高等学校の「総合的な探究の時間」の発表会である「KTP アワード」に、藤波が審査員として参加した。 2. 別府大学の高大連携事業の聞き取り調査 2025年12月12日、別府大学を訪れ、大分県内を地域区分して、それぞれの地域に高等学校管理職経験者を担当者として配置し、高等学校の教育支援に関するニーズの聞き取りに基づいた連携事業の実態について、担当者から聞き取り調査を実施した。 3. 帝塚山大学の高大連携事業の聞き取り調査 2026年3月5日、帝塚山大学を訪れ、法人・事務局が主体となって展開されている高大連携事業の実態について、担当者から聞き取り調査を実施した。
成果・結果・効果	<p>興南高等学校との連携については、高等学校の「総合的な探究の時間」を支援することについての体験知を得られた。支援したクラスの生徒を対象としたアンケート調査の結果、高校生は大学生からの支援を相当高く評価しており、成果物作成の取り組みに対する意欲も高まっていることが明らかとなり、大学生が関係することの成果が明らかとなった。その一方、高校側が大学に期待する内容を正確に把握することや、大学が提供できるリソースと高校側が求めるものを一致させることと等の課題も明らかとなった。</p> <p>別府大学、帝塚山大学に対する聞き取り調査からは、大学関係者が高等学校に赴き、高等学校側のニーズを正確に把握すること、および、大学と高等学校の担当者間の人間関係をしっかりと構築することの重要性が、共通して挙げられていた。</p>
今後の展望	<p>今後は、沖縄県内の高等学校に対する教育支援活動を、「総合的な探究の時間」を中核としつつ、継続的に展開することとする。</p> <p>同時に、「探究学習」に対する政策的な動向を注視しつつ、入学者選抜のあり方、初年次教育のあり方にフィードバックできるような取り組みを展開したい。</p>